

失業や再就職で脳卒中リスク上昇—日本の研究から—

雇用状況の変化による脳卒中リスクへの長期的影響についてのエビデンスはほとんどなく、本研究では、日本人男女およそ4万2,000人(男性21,902人、女性19,826人)を対象に前向き研究を実施し検討した。

1990～1993年に開始し、2009～2014年まで追跡した結果、脳卒中の発症が男性で973例、女性で460例みられ、そのうち死亡に至ったのは男性275例、女性131例であった。失業した経験のある人では、男女ともに脳卒中のリスクが高くなり、継続して就業していた人と比べ、失業したことのある人の脳卒中発症リスクは男性で1.58倍、女性で1.51倍に上昇、死亡リスクもそれぞれ2.22倍、2.48倍となった。また、再就職した場合には、男性では脳卒中発症リスクは2.96倍、死亡リスクは4.21倍になった。一方、女性ではそれぞれ1.30倍、1.28倍と大幅な上昇はみられなかった。

したがって、失業すると男女ともに脳卒中の発症および死亡のリスクが高くなり、さらに男性では再就職によっても同様にリスクが高まることが示された。

出典：Stroke. Published online Apr 06, 2017; pii: STROKEAHA.117.016967